

第25回地域福祉実践研究セミナー in 沖縄・うらそえ ワークショップ 3 報告

離島県・亜熱帯・沖縄の現状から考える～自分事として 考える防災～

- 実践報告者 : ① 伊佐区自治会 会長 宮城菜々子氏
② 大謝名団地自治会 会長 大城周子氏
③ 障がい福祉サービス事業所としての取り組み
障がい福祉サービス事業所はごろも支援課長 安富祖 貴哉氏
④ 災害時におけるコミュニティラジオの役割
株式会社FMぎのわん 代表取締役社長 山内一郎氏
- アドバイザー 宮城 孝氏（日本地域福祉研究所 副理事長 法政大学）
稲垣 暁氏（災害ソーシャルワーカー・社会福祉士・防災士）

参加者の状況

会 場：宜野湾市社会福祉センター 2階ホール

参加者：約30名

▶ **（社会福祉協議会職員、民生委員、学生など）**



講演提供 (2022)

沖縄県地域福祉推進課より委託された地域福祉推進委員会

- ① 「避難支援」= 避難生活の安定化を図るための地域福祉推進とは？
- ② 避難支援が成立するために必要な「自助」活動とは？

目的

- ① **地域の自然的な条件・地理に応じた防災対策、避難対策のあり方を探る**
(沖縄 琉球海溝や南海トラフ 沿岸部で甚大な被害が想定、 離島県であることのハンディ 防災意識が低いと言われる 米軍基地の存在)
- ② **災害に対する自助力をどうやって高めるか**
- ③ **災害に対する地域の対応力をいかに強めるか**

展 開 方 法

(午前) 稲垣氏 基調講演

**「沖縄の防災福祉における地理的・気候風
土的・社会環境的課題」 (p 94～99)**

(午後) グループ・ミーティング

**パートⅠ 災害におけるリスク（危険とは）とは？
～自分事として考えてみよう～**

**パートⅡ 最後まで自分らしく地域で過ごすためには？
～在宅で亡くなる最後まで自分らしく地域で過
すために大切なことや出来そうなこと～**

パートⅢ 災害時に備えて連携や活用したい社会資源、支え合うまちづくりを目指すために大切なこととは (活動や文化、人など)

下(2)災害に備えるにはどうすればいい?

社会資源(準備と活用)

基礎的備蓄

- 増設貯蔵庫
- 水・食料
- 防災用品
- 防犯カメラ
- 不燃性資材
- 避難経路の確保

- 企業との協力
- 防犯カメラ
- 防犯カメラ
- 防犯カメラ
- 防犯カメラ
- 防犯カメラ

- 例) 1年分の食料を貯蔵
- 例) 1年分の食料を貯蔵
- 例) 1年分の食料を貯蔵
- 例) 1年分の食料を貯蔵
- 例) 1年分の食料を貯蔵
- 例) 1年分の食料を貯蔵

- 例) 1年分の食料を貯蔵
- 例) 1年分の食料を貯蔵
- 例) 1年分の食料を貯蔵
- 例) 1年分の食料を貯蔵
- 例) 1年分の食料を貯蔵
- 例) 1年分の食料を貯蔵

地域住民の
主たる活動

市町村の職員
と住民の協力

地域住民の
主たる活動

地域住民の
主たる活動

自治体の職員
と住民の協力

自治体の職員
と住民の協力

自治体の職員
と住民の協力

自治体の職員
と住民の協力

自治体の職員
と住民の協力

自治体の職員
と住民の協力

自治体の職員
と住民の協力

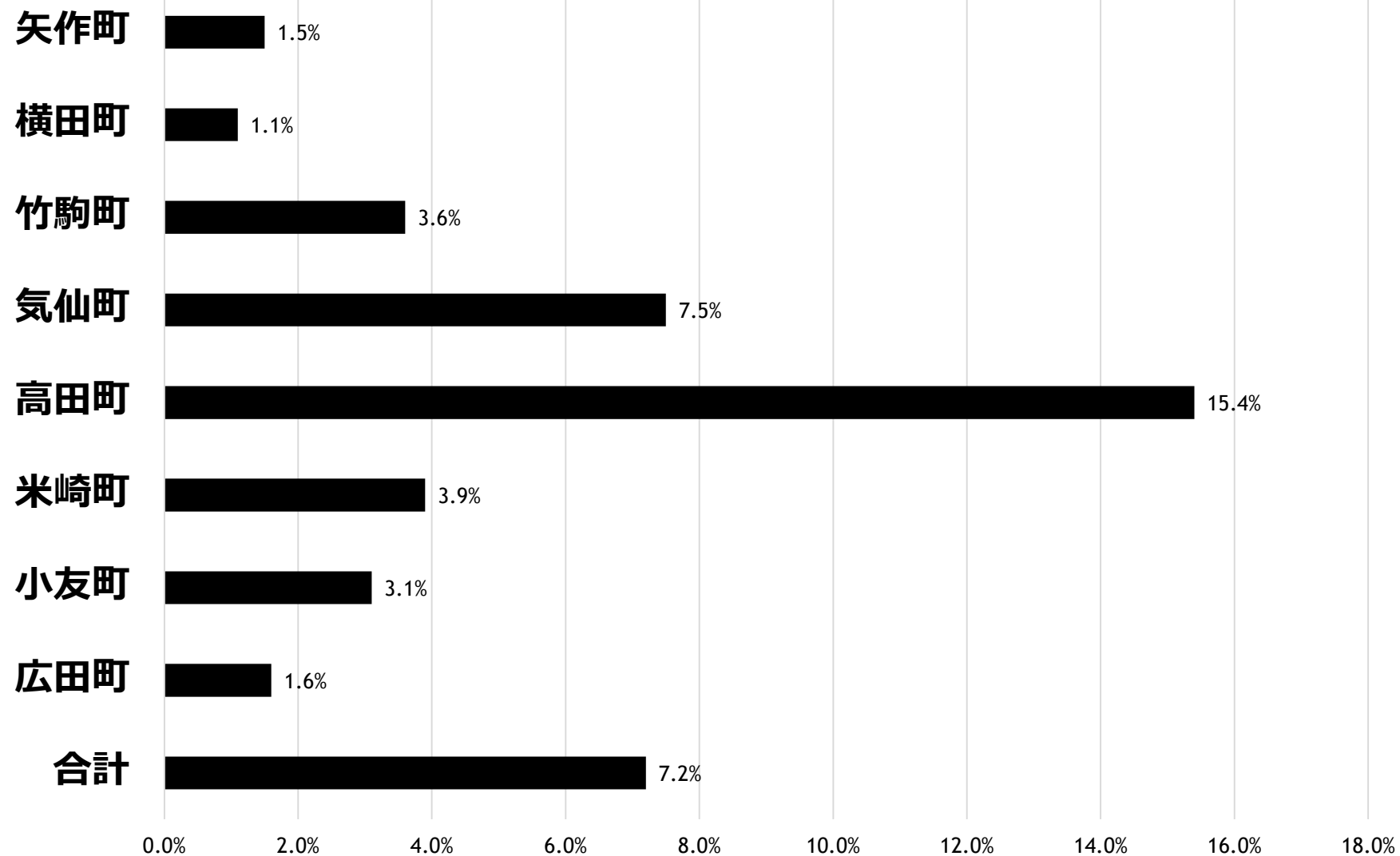
自治体の職員
と住民の協力

自治体の職員
と住民の協力

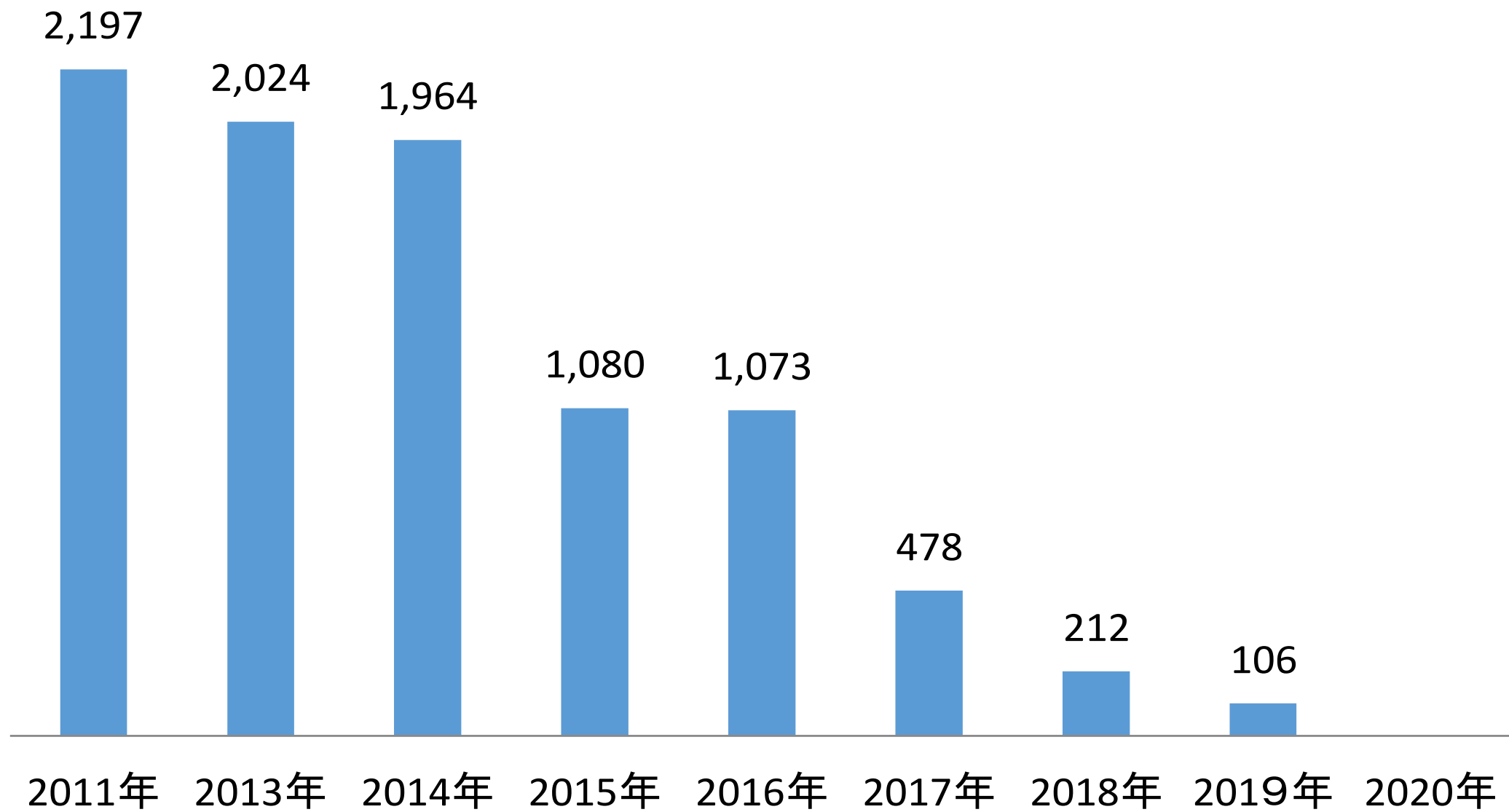
自治体の職員
と住民の協力

自治体の職員
と住民の協力

自治体の職員
と住民の協力



岩手県 陸前高田市における町別の人的被害率



陸前高田市の仮設住宅における被災世帯の居住戸数の推移



広田地区における復興マスタープランづくりのためのワークショップ
(2012年2月)

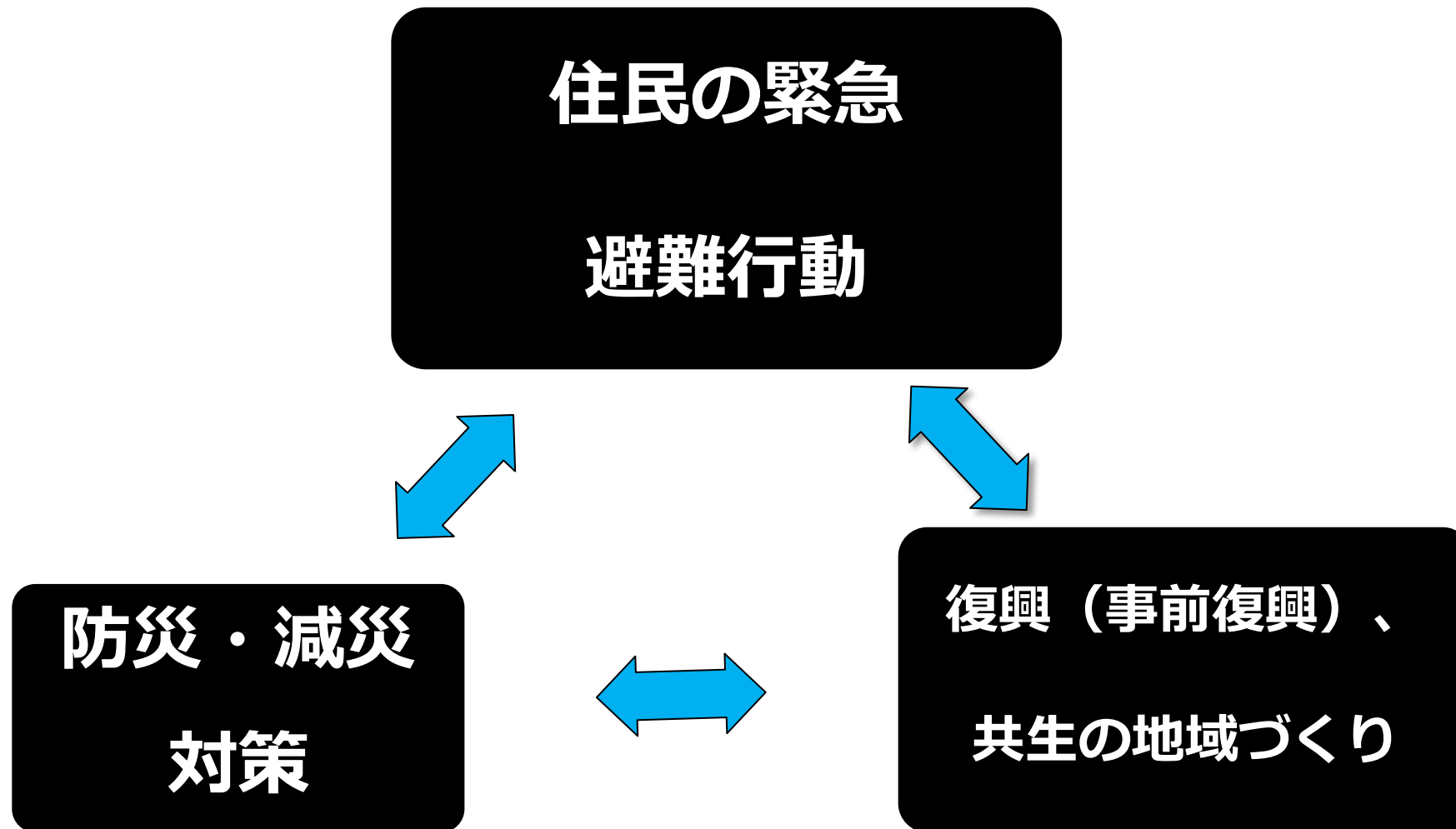


《今後の取り組みに向けての論点》

- 災害発生地域の特性によるリスクのアセスメント
(地理、気候、人口的要素、住宅、交通、住民意識、
伝統文化、地域の防災対策、地域資源などの
要因)
- 一人でも多くの命を守る地域の減災対策の
ためには、①豊かな知識と想像力、②実践に結
びつける智恵、③地域の人材力
(津波襲来における15分までの避難を、避難
行動要支援者の避難を含めて地域のルー
ルとしていかに実現していくか)
- 普段の地域づくりが、いざという時に役立つ

- わが国の歴史上、世界上類のない人口減少、超高齢社会は、ある意味、社会的な災害（人災）ではないか。
- 単身化、多死化社会において、住民の一人一人の人生（生老病死）上のリスク（災害）に立ち向かう力（エンパワメント）を引きだし、強めることが求められている。
- 地縁組織が弱まりつつある現在、これまでと違う人材（子ども、若者など）と主体（企業や社会福祉法人など）「新たなつながり」づくりと行政による縦割りでない包括的支援システムの構築が求められる

防災・減災対策から共生の地域づくりへ (最優先のルールは、一人一人の命を大切にすること)



陸前高田 元高田1中仮設 80歳

女性自治会長 「戦後の何もないときに比べたら、今回の震災は大変ではなかった」

次の世代に何を伝えられるか

「命どー 宝」 戦争（最も酷い社会的災害）で、わが国で最も苦しい経験をした沖縄であるからこそ、その可能性がある